

私と主人森茂岳雄

森茂麗華

2000年主人は再三誘われて、3年間考えて東京学芸大学を辞職して、中央大学に非常勤講師から専任教授として迎えられました。私も中央大学に非常勤として勤めるようになりました。それで、この周辺で家か土地を探してみました。当時駐車場だった土地に注文住宅で今の家を建てました。小学校6年と3年の娘2人を連れて、陽光台の住民となりました。

以後、22年間も勤めながら娘2人を羽ばたくように育てました。私たち2人は休む暇も、陽光台の住民と交流を深めることもなく、2022年70歳退職まで働きました。退職後やっと陽光台の皆さんと親睦を深めようと、ポールウォーキング、健康体操、麻雀と卓球サークルに時間を作って参加しました。2年近く、主人が皆さんと同じ立場と視線で一生懸命に頑張って馴染んで来て、皆さんに好評され、好かれていました。お陰様で私たちはこの素晴らしいコミュニティーのできる陽光台で老後を過ごそうと決めました。

岳雄さんは飛騨高山の生まれ、昭和26年11月6日当時まだ和服が多い時代ですが、洋服屋の初孫として生まれました。大事に家族に囲まれて育っていました。高山で中学校を卒業して東京に引っ越ししてきました。1971年学生運動の激動の

中東京学芸大学教育学部に進学し、生涯の使命となる教育学の学問の道を歩み始めました。お母様は私立に行くなら30万円用意してくれたそうで、節約出来て、家のお風呂の修理代に回したそうで、親孝行できました。学芸大学の修士課程を出て、筑波大学へ進学して修士と博士課程まで勉強しました。アメリカと教育学専攻しました。学生時代から関東圏の大学に殆ど非常勤講師を経験しました。専任は武蔵音楽大学の講師から、茨城大学、そして母校学芸大学、中央大学へと教授になりました。



私と主人 2017年3月北京王府井にて

私は主人と同年同月4日間の違いで、1951年11月2日大連で生まれて育ち、これも主人とのご縁の一つかも知れません。主人は日本の経済高度成長期でしたが、私は中学校の時、中国はプロレタリア文化大革命が始まり、1968年10月毛沢東の号令で、当時中学校一年生から高校三年生までの90%は農村へ知識青年として赴きました。

1974年9月私はまだ運が良く、大連外国語大学日本語学部に入りました。1972年中国と日本は国交回復して、日本語の人材が必要だからです。卒業後そのまま日本語の教師の卵として大学に残されました。

1980年4月教師のママ国費留学生として東京学芸大学に入りました。学芸大学で既に筑波大学に進学した先輩の森茂岳雄さんと知り合いました。当時、中国は厳しくて、国際結婚を考えたこともありませんでした。私は1981年10月大連外国語大学に戻って、1987年まで母校で日本語の教師として勤めてきました。

岳雄さんと知り合って7年、1978年35歳でやっと結婚に辿り着きました。その間外国人と自由に付き合うことが許されなく、郵便物が調べられ、国際電話も出来ない時代でした。

岳雄さんはその間に香港を通過して、スーツケースを持って、国境を歩いて越えた経験もありました。1975年私の母校に中国語学習班が出来て、岳雄さんは留学生として大連に来てくれました。その時初めて私の家族に会いました。53年間日本の植民地だった大連で生きてきた祖父と父に結婚が反対されました。「岳雄さんがとても良い青年ですが、日本人だけ

ら」結婚は許されませんでした。1年間父と口も聞かない状態が続け、その間に弟が仕事で日本に来て、岳雄さんに会いました。とても良い印象だと父を説得しました。

1987年2月岳雄さんは大連に来て、いろんな困難を乗り越えてやっと結婚登録証をもらいました。6月私の日本へのビザがやっと降りて、大学のもう1人の先生と一緒に船に乗って東京港に着きました。ほんとに大好きな歌「瀬戸の花嫁」みたいです。その後また日本で結婚式を行って、2人の門出を始めました。1988年10月長女が生まれ、91年9月次女が生まれました。主人と2人で仕事をしながら子育てを頑張りました。長女は高校から中国へ、大学は中国人民大学に、修士課程は日本に戻ってきて、慶応義塾大学に入って、間に上海復旦大学に留学、ダブル学位を取りました。次女は大学から北京師範大学へ修士課程を終えて、北京大学博士課程に留学しました。親としては肩の荷を少し下ろしました。

岳雄さんは大学の教師を務めながら、いくつかの学会の会長や理事を兼任していました。周りに日本の学生だけでなく、中国、韓国、台湾などから沢山の留学生集まってきました。留学生が来る度に、岳雄さんは手続きをしてあげたり、保証人になったり、そして成田空港へ迎えに行ったりしました。30年間20人ぐらゐの留学生とその家族を我が家に泊めて、日本の習慣や生活を教えて、慣れてからまた住む家を探して生活用品を寝具から台所の食器までその日から生活できるようにして用意したりしました。何回かトラックを借りて、都合した生活道具

をも乗せて、住む家まで送ったこともありました。そんなことをやってる大学の教授はどこにもありません。私のせいもあるかもしれませんが、ほんとお世話になりました。

退職する年も最後に1人の中国の大学の先生を招待して1年間留学しました。すべての家財道具を用意してあげました。主人が亡くなってから来た人もいました。私は代わりに同じようなことをしてあげました。岳雄さんは天国で安心しているでしょう。

岳雄さんは全ての学生に対して、授業と大学のこと以外に困ってることがあれば、いつも温かい手を伸ばして助けます。学生に仕事を紹介したり、頼んだりして上げます。体調が崩れた学生の面倒を見たりして、ほんとに教師と同時に親と言っても全然過言ではありません。

岳雄さんから、自分が学芸大学から筑波大学博士課程に行ったので、なかなか世話をしてくれる先生が居なくて、関東の殆どの大学で非常勤をして来ました。専任講師になるまでは随分苦労した自分の経験から、自分の教え子にそのような辛い思いさせたくないで、出来るだけスムーズに働けるように、紹介状を書いたり、自ら頭を下げて頼んだりしてあげました。また何人か自分の学生に結婚相手まで絆をつないであげて、幸せに結婚した学生もいます。

ホントの親分です。

岳雄さんは、また沢山の社会活動に参加していますが、例えば自分は八王子の市民ですから、自分の細やかな力と行動で市政を良くするように貢献したいと頑張っています。

八王子市外国人市民会議会長(2006年9月～2010年12月)

八王子市国際化推進プラン検討委員会委員長(2012年9月～2013年3月)

八王子市多文化共生推進評議会委員長(2014年1月～現在)

として、余命が1っか月も無いと医師に言われても、2月16日どうしても会議に出席すると娘に乗せてもらって、八王子市役所の会場に行って会議を司会しました。

国際協力機構横浜センター海外移住資料館学術委員会委員(2006年7月～現在)の会議に亡くなる3日前3月7日にZoomで参加して、まとめの発言もしました。

岳雄さんの責任感と強さが生命の最後の最後に自分の行動で立派に残して下さいました。

岳雄さんは永遠に私たちの頭に、心に生きて下さっています。

2024年6月26日 東京にて